

ラザロと家族に起こされた出来事から学びの続きです。

1. ラザロの死の現実 (30～37節)

①村に入らず (30～31) 「さてイエスは、まだ村に入らないで、マルタが
出迎えた場所におられた。マリヤとともに家にいて、彼女を慰めて
いたユダヤ人たちは、マリヤが急いで立ち上がって出ていくのを見
て、マリヤが墓に泣きに行くのだろうと思い、彼女について行った。
マルタと会ったイエスはマリヤにも会うことを望まれました。イエ
スはベタニヤ村に入ることもしませんでした。一方、友好的ユダヤ人
たちはマリヤが急いで家を出るのを見ると、ラザロの墓に行くのだと
思い、ついて行きました。

②霊の憤り (32～34) 「マリヤは、イエスのおられた所に来て、お目にか
かると、その足もとにひれ伏して言った。『主よ。もしここにいてく
ださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。』そこでイエ
スは、彼女が泣き、彼女といっしょに来たユダヤ人たちも泣いている
のをご覧になると、霊の憤りを覚え、心の動揺を感じて、言われた。
『彼をどこに置きましたか。彼らはイエスに言った。『主よ。来てご
覧下さい。』』マリヤはイエスに会うと、ひれ伏して言いました。「こ
こにいてくだされば、ラザロは死なずに済んだでしょうに」。イエ
スはマリヤをはじめ、ユダヤ人たちが泣いている姿に接しました。人間
の罪の結果である死。そのことにおいて、主は霊の憤りを覚えられた
のです。そして、ラザロの葬りの場所を尋ねられます。彼らはそこに
案内しました。

③涙を流された (35～37) 「イエスは涙を流された。そこで、ユダヤ人た
ちは言った。『ご覧ください。主はどんなに彼を愛しておられたこと
か。』しかし、『盲人の目をあけたこの方が、あの人を死なせない
でおくことができなかつたのか。』という者もいた。」イエスの涙。人
間イエスは家族と共に、ラザロの死を悲しまれたのです。これに対し、
ユダヤ人の中には、イエスのラザロに対する愛を伝える者がいる一方、
盲人の目を開ける (9章) ことができる方が、どうしてラザロの命を
守ることなく、死なせてしまったのかと批判する者達もいました。

2. 神の御力の確認 (38～42節)

①墓に来て (38～39) 「そこでイエスは、またも心のうち憤りを覚えなが
ら、墓に来られた。墓はほら穴であって、石がそこにたてかけてあ
った。イエスは言われた。『その石を取りのけなさい。』死んだ人の
姉妹マルタは言った。『主よ。もう臭くなっておりましょう。四日
になりますから。』主イエスの心の憤りは、人間の根本問題に基づくも
のでした。イエスは横穴式の墓に着きました。イエス・キリストが十
字架上で死に葬られた時もそうでしたが、墓の入口は大きな石がふた



となり、動かすのには二人は必要でした。イエスは「その石を取りのけなさい」と言われました。しかし、マルタは「主よ、四日たち、もう臭くなっているでしょう」と反応しました。

②**神の栄光を** (40)「**イエスは彼女に言われた。『もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。』**」キリストはマルタが「信じるならば、決して死ぬことはない」(26)と言われ、そこに神の栄光があらわされること(4節)を伝えてありました。

③**信じるようになるため** (41~42)「**そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて、言われた。『父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝します。わたしは、あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを知っていました。しかしわたしは、回りにいる群衆のために、この人々が、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じるようになったことを信じるようになるために、こう申したのです。』**」墓の入口の石が除けられると、イエスは祈られました。「父なる神。祈りを聞いて下さることを感謝します。この群衆が、わたしを遣わした方を信じるようになるために、このように申しているのです」。

3. ラザロよ。出て来なさい。43~46節

①**大声で** (43)「**そして、イエスはそう言われると、大声で叫ばれた。『ラザロよ。出て来なさい。』**」その上で、イエスは大声で叫ばれたのです。『ラザロよ。出て来なさい』。主は風に向かって命令されたことがありました。今ここで、死んで4日もたっているラザロに命令されたのです。それは失われた地上の命が、よみがえることを命ずるお言葉でした。

②**布切れで包まれ** (44)「**すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたまま出てきた。彼の顔は布切れで包まれていた。イエスは彼らに言われた。『ほどいてやって、帰らせなさい。』**」主イエスのお言葉には力がありました。大風がやんだように、そのお言葉で死んでいたラザロが、墓から出てきたのです。遺骸に巻かれていた手と足の長い布はそのままでした。ま顔にも布切れが覆われているままでした。今、ラザロは息を吹き返したのですから、遺骸を巻く布は必要ありません。『ほどいてやって、家に帰らせてやりなさい。』と人々に言われたのです。イエスはここで、ラザロに命の復活をお与えくださったのです。

③**ユダヤ人たちの反応** (45~46)「**そこで、マリヤのところに来ていて、イエスがなされたことを見た多くのユダヤ人が、イエスを信じた。しかし、そのうちの幾人かは、パリサイ人たちのところに行って、イエスのなされたことを告げた。**」マリヤのあとを追って来たユダヤ人たちは、イエスのなされたことを確かに見たのです。そして、彼ら

はイエスを信じたのです。少なくともその御力を見て、イエスが大いなる存在であることを認めたのです。そこにいたユダヤ人たちの中には、そのことを理解するために、パリサイ人のところに行ったのです。そして、起きた出来事を伝えたのです。その意味とイエスとは誰であるのかを知ろうと模したのです。

《結論》 人間には二つの根本問題があります。一つは、罪の問題です。

そして、もう一つは死の問題です。ラザロの記事には、この二つの根本問題を含んでいるのです。

第一に罪の問題ですが、イエス・キリストはラザロの死のことで、マリヤたちが泣いているのに触れた時に、霊の憤りを覚えられたとあります。それは、単にラザロが死んだことを嘆いておられるのではなく、もっと根本的なことを問題にされているのです。つまり、創世記にあるように人間がサタンの誘惑に応じ

て、神との約束を破り、中央の木の実を食べたことに発します。それは恵みに満ちた神との間の唯一の約束でした。ここに人間は墮落し、人間に原罪として

の罪が生じ、人間は死ぬ存在になったのです。イエス・キリストはこの罪の問題のゆえに霊の憤りを覚えられたのです。ラザロはイエスを素直に信じる人

でした。ですから、個別的なラザロの罪というより、人間が誰でも原罪をかか

えたままでは救われない存在であることを示しているのです。それを漠然と感ずるからこそ、人間存在を考える人たちが、罪の問題をとりあげるのです。この原罪とそれに伴う具体的な人間の罪については、キリストの十字架の死による、贖罪により救いの道があります。身代わりとして死んでくださったイエス・キ

リストを信じることにより、人は罪を赦され、救われていくのです。第二に死の問題です。「罪から来る報酬は死です」(ローマ書 6:23)とありますが、罪は放置して解決はつきません。そのままであれば、報

いととして
の死を招くのです。それは、実を言うと地上での命の死をこえた、永遠
の死の
問題となってくるのです。主イエスは、このことにも霊の憤りを覚えて
おられま
す。また「涙を流された」とありますが、この涙はラザロのためである
と同時に
そのままでは救われないすべての人間のために流してくださっている
のです。

あなたのために、主は涙を流してくださっているのです。

主は言われました。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる
者は死んでも生きるのです。」(25節)。よみがえりの主は、十字架上で
死な

れ、三日目に復活されました。ただし、主の復活の命とラザロのよみが
えりの

命とは少し異なります。なぜなら、ラザロはこれから数十年してこの地
上での

命は終わったからです。ラザロはその信仰によって救いがもたらされ
ますが、

ここでよみがえったのは、地上の命において、息を吹き返しさせていた
だいた

ということです。ともあれ、その命の吹き返しという命の源は、「よみ
がえりであ

りいのちです」と言われた主イエスのうちにあることを覚えましょう。

また主はこ

こに神の栄光を表してくださったのです。主はあなたが主イエスを信じる
信仰

によって永遠の命(ゾーウェー)を与えられ、この地上においても救い
による

生き生きとした命をもって生かしてくださいます。いのちの主を信じま
しょう。

さて計らずも、このラザロの記事を学んでいる時に、一人の兄弟が
生死の

問題に遭遇しました。私たちに主は、何事かを語りかけようとしておら
れると思

われます。それは個別的にその兄弟だけのことというよりも、私たちす
べての者

たちへのメッセージとして語られていると思われま。よみがえりの主
は、あな

たにまことの命をさずけてくださいます。また、傷ついたあなたの人生
に復活を
もたらしてくださいます。このことにおいて、私たちの群れにも、神の
栄光があ
らわされようとしていると信じます。今こそ、イエス・キリストの復活
の御力に寄
り頼み、この方により、復活の命によって生かしていただくようではあり
ませんか。